

H. P. Report

創刊号

発行責任者 三菱電機株式会社 北陸支社 官公システム課 稲崎義明

H. P. Report 創刊にあたって

今回からH. P. Reportという名称で改めて情報誌を創刊します。発行内容、発行サイクルなどについてはこれまでとほぼ同じで行っていく予定です。これまでと異なるのは、作成をWordで行うことで、多少問題は含むにしろインターネット上のホームページでの掲載も発行と同時にを行います。

基本的にはコンピュータ関連の話題が中心となりますが、名称にあった「PC」を「P」のみとしたことからある程度広範囲な話題を含んでいきたいと考えています。

まず創刊にあたって若干映画に関係した話題から始まります。昨年「マトリックス」という映画が公開され、すでにビデオやDVDなどが発売されていますが、見られた方もいらっしゃるかもしれません。この映画の中で今現在現実と違って住んでいる世界が実は作り出された世界で、本当の世界は別にあるようなことができます。確かに、今日の前にある世界が本当の現実であるとするようにして確かめることができるのでしょうか。「手で触れる」、「目で見える」などのことによって実感するのでしょうか、実際はたとえば手で触れたという信号が感覚神経から脳までの神経を伝達され、最終的に脳でその信号を判断することによって触ったことが判断されています。つまり、あくまで脳に入ってきた信号を脳がどのように判断するかによってその信号の意味を作り出すのであっても、言ってしまうえば各人の脳の中でそれぞれに世界が構築されているということもできます。私の理解しているこの世界というものは他の人の世界と異なっている場合もありうるということになります。いい例かどうかは別ですが、わかりやすい例としては何かの事故で手を失った人は無くした手がいつまでもあるように感じ、痒くなったり痛くなったりするそうです。無くなったということを経験した人が他の感覚期間（視覚など）から入力して自覚するまではその感覚が続くようです。他の人から見れば明らかに無いものでも当人にとっては有り続けているのですから1つの例ということができます。また、予備知識を付けている事によって別のものに判断させることもできます。犯罪で犯人であると強調されていれば、以前目撃した顔が犯人とされている顔に近づけることもできるようです。このように、各人の現実と思っている世界は多少ながら外からの別の情報によって変化させることもできます。

頭の中の話で夜見る夢があります。だいたい長編の夢を見たりするようですが、実際はどのぐらいの時間見ているのでしょうか。夢を見ている自分を夢の内容を含めて外から客観的に見るわけではないのですからはっきりしたことはいえませんが、ごく短時間に見ているのではないのでしょうか。ごく短時間でも見たという記憶情報が作り出されれば夢として後から思い出すことができるのですから時間は必要無いのではないのでしょうか。よく墜落して死の世界から奇跡的に生還した人が、墜落している間にこれまでの人生が走馬灯のように思い出されたという話があります。実際に墜落している時間というのは1秒とか2秒程度ですから過去の記憶を思い出している時間があるはずは無いのですが、見たと思ひ込むことは記憶情報の移動ですから可能になります。

創刊号らしく変な内容ですが、これまで大丈夫と思われていた世界が大変革を遂げることが不思議でもなんでも無くなっています。観点を変えると現実の世界が違って見えることも有ります。考えてみれば、急速に変化しているものが違うだけで、世界は絶えず同じように変化しているような気がします。

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 5月8日号

特集 携帯で決済

→2001年5月に次世代型の移動体通信サービスが開始され、携帯電話にICカード搭載が義務付けられる。このICカードによって、クレジットカード、キャッシュカードなどの個人情報に関するものが携帯電話にすべて暗号化された状態でのみ込まれる。いろいろなところの決済がすべて携帯電話で行うことができるようになる。

解説 「ブロードバンド」にはひた走る米国デジタルテレビ

→放送機器展「NAB2000」では、デジタルテレビ放送の話題がこれまで中心であったHDTVから、放送に通信やインターネットを組合せたブロードバンドネットワークに流れが変わった。

○日経パソコン 5月15日号

特集 インターネットが危ない

→インターネットを使っている上でのトラブル（詐欺、個人情報漏洩、ウィルス、身に覚えのない請求、メールの盗聴）について、その実例と対策について。まだ日本ではセキュリティについての意識が低く、トラブルが非常に多い。

特集 初めてのHDD増設

→IDEの20GBのHDDが1万円台で買えるようになって増設を考えることは多い。本体内への固定方法から設定方法までの解説。

○日経オープンシステム 5月号

特集 カットオーバー後のトラブルをなくせ

→システムが完成し、本稼動となるカットオーバー。その後もレスポンスの劣化、操作性の悪さ、SEのミスなどトラブルが多発することが多い。完全に無くすことはできないが、各項目によってテスト方法を見なおすことによってトラブルを減らすことはできる。

注目 活用の場を広げるMQ (Message Queuing)

→MQは複数のアプリケーション間でメッセージを非同期に送受信しアプリケーションを連携するためのミドルウェアで、既存システムに手を入れずに簡単に、高速且つ確実なアプリケーション間連携を行うために注目されている。

注目 キャッシュサーバー装置

→WWWアクセスのレスポンス向上、ネットワークトラフィックの負荷軽減のためのキャッシュサーバに専用装置が登場している。

○日経ネットビジネス 6月号

特集 「老・若・子・女」で潤う次世代型ネットビジネス

→インターネットを利用するのは確かに20～40歳代の男性だが、これまで縁遠いと思われていた「老・若・子・女」のネット市場が成長率、収益性も高い有望市場であることがわかった。女性は消費の7割をコントロールし、高齢者層の消費支出は2015年には全体の半分に達する。更に若年層は一旦顧客となれば将来的に収益をもたらしてくれる。各企業はこれらの層を対象としてビジネスを展開はじめている。

特集 ネットで生まれたヒット商品

→インターネットで広告するだけでなく、インターネットで消費者の意見を集めて商品化まで行ったものや、PS2のようにインターネット上での販売などこれまでのものを打ち破るのにインターネットは最高の環境を提供している。

○DOS/V magazine 6月1日号

特集 Windowsメモリ完全制覇

→Windowsにはどのぐらいメモリがあれば良いのか。多ければ多いほうが良いのか。多ければ遅くなるという話もあるが。パフォーマンスの設定はどうすれば良いのか等、Windowsとメモリの関係。上手な使い方などを見してみる。

特集 リアルタイム・ノンリニア編集の実力

→IEEE1394カードの発売、大容量HDDの低価格化などDVベースの映像データのノンリニア編集の環境がかなり少ないコストで構築可能になってきている。難しそうな映像の編集だが、やってみればなかなか面白い。現在発売の製品紹介から上手な編集環境構築方まで。